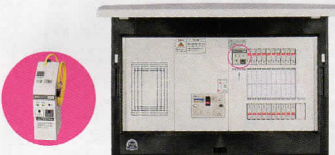


これだけは覚えておきたい

地震火災の心得3箇条

延焼危険の高い木造密集地域に住む私たちが、震災時に火災からの被害を最小限に防ぐためには、日頃からの一人一人の備えが重要です。地震火災から命を守るには、どのようにすればいいのでしょうか。必ず覚えてほしいポイントを3つに分けて説明します。

【感震ブレーカーなどの種類】



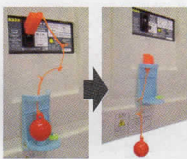
分電盤タイプ

センサーが揺れを感知し、一定時間後にブレーカーが落ち電気を遮断



コンセントタイプ

センサーが揺れを感知し、当該コンセントのみの電気を即遮断



簡易タイプ

重りの落下やバンドの作動によりブレーカーが落ち電気を即遮断

近年の大地震では、停電から電気が復旧した時に、断線したコードから火花が出たり、白熱球や電気ストーブ等の電化製品が作動したりして、近くの燃えやすいものに火が付くなど、通電火災と呼ばれる電気に起因する火災が多発しました。火災を1件でも減らすためには「地震が起きたらブレーカーを落とす」ことが有効です。非常時に冷静に行動することは難しいので、地震を感知し自動でブレーカーを遮断する「感震ブレーカー」などをあらかじめ取り付けておくのも有効です。避難する時は、必ずブレーカーが落ちていることを確認してから家を離れましょう。

阪神・淡路大震災や東日本大震災などの大規模地震時に発生した火災の過半数が電気に起因する火災

火災リスクを減らすには出火そのものを防ぐ対策が有効



「大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会」
座長 関澤 愛氏（東京理科大学大学院国際火災科学研究科 教授）

木造密集地域の延焼危険を減らす対策としては、建物の不燃化推進や住民による初期消火体制の構築が重要で、これまでどおり地道にすすめていく必要があります。一方、阪神・淡路大震災や東日本大震災など最近の地震火災の半数は電気に関係する火災であることがわかっています。従って、地震時に揺れを感じて自動的に電流を遮断する感震ブレーカーが普及することは、地震による出火件数を半減させることが期待できるもう一つの有効な対策です。

心得その① 火災は起こさない！
火災予防のカギは「電気」

電気火災を未然に防ぐには

対策1 感震ブレーカーを取り付け、ブレーカーの落とし忘れのないよう徹底しましょう！

対策2 避難などで家を離れる時はブレーカーが落ちていることを確認しましょう！